



平成二五年度秋田県消防功労者表彰式



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十六年全国統一防火標語
もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ



式辞(要約)
秋田県副知事
堀井 啓 一

日ごろ皆様には、火災をはじめ災害から県民の生命と財産を守るため、昼夜を分かたずご尽力いただいております。深く敬意と感謝の意を表します。

受章される皆様には、心からお祝いを申し上げますとともに、支えてこられたご家族や関係者の方々に、厚くお礼申し上げます。

災害から住民を守り、地域の安全安心の確保を図ることは、行政の最重要課題の一つであり、住民・地域・行政が一体となった消防・防災体制を構築することが、何よりも重要であります。

このため県では、「秋田県地域防災計画」の今月中の策定に向けて、最終的な詰め作業を行っているほか、広く県民に防災知識を身に付けていただくため、昨年一〇月に運用を開始した地震体験車や、今日一日にオープンした防災学習館の活用を呼びかけているところであります。



挨拶(要約)
公益財団法人
秋田県消防協会
会長
中 田 潤

また、市町村と連携を深めながら、防災・危機管理体制の強化に取り組みむこととしており、皆様におかれましても、こうした取り組みに、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本日表彰を受けられます方々には、今後も健康に留意され、豊かな知識と経験を消防組織の更なる発展に生かしていただき、ますますと、地域の安全安心の確保を図るため、なお一層のご活躍を心から祈り申し上げます。

栄えある受章を心からお祝い申し上げます。

東日本大震災から三年が経過しました。あの震災における消防職・団員の懸命な活動は、国の内外から高い評価を頂きましたが、残念ながら多くの殉職者を出してしまいました。誠に痛恨の極みであります。

このようなことを決して繰り返さないためにも、大震災の体験を教訓として、消防体制の整備を更に進めて行かなければなりません。

一方、県内の災害の発生状況をみますと、火災はもとより、昨年八月



消防庁表示証伝達



消防団等地域活動表彰伝達

の記録的な大雨やここ数年の豪雪など自然災害の脅威も依然として続いております。

このような中、県民の消防防災に対する関心・期待は高まってきたおり、消防本部、消防団の任務・役割は益々大きく重要なものとなります。

私たち消防人は、県民の安心・安全確保という強い願いに応えていくため、一層高い士気の下に訓練を重ね、地域との連携を更に深め、より強靱な体制を構築して、あらゆる災害に立ち向かってまいる所存であります。

本日受章されました皆様には、これからも地域の消防防災リーダーとして、それぞれの分野でご活躍、ご支援賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。



受章者代表謝辞



日本消防協会竿頭授伝達

消防庁長官表彰

◆功 労 章 (1名)

由利本荘市消防団 団 長 周 防 彦 宗

◆永年勤続功労章 (76名)

横手市消防本部	消 防 監	伊 藤 弘 明	由利本荘市消防本部	消 防 監	佐々木 輝 一
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	佐 藤 敏 彦	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	田 口 智 大
由利本荘市消防本部	消防司令長	板 垣 義 紀	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	大 澤 善 樹
秋田市消防本部	消防司令長	鎌 田 千 尋	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	菊 地 重 男
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	熊 谷 宏 美	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	齊 藤 英 一
横手市消防本部	消防司令長	東海林 俊 一	湖東地区行政一部事務組合消防本部	消防司令長	菅 原 良 己
秋田市消防本部	消防司令長	寺 山 一 香	男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消防司令長	登 藤 誠 一
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	西 成 一 慶	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	沼 倉 初 生
由利本荘市消防本部	消防司令長	三 浦 常 男	北秋田市消防本部	消 防 司 令	笹 代 均 一
にかほ市消防本部	消 防 司 令	須 藤 忠 男	鹿角広域行政組合消防本部	消 防 司 令	米 田 俊 一
大館市消防本部	消 防 司 令	渡 邊 暢 一	仙北市消防団	副 団 長	荒木田 俊 一
湯沢市消防団	副 団 長	加 藤 久 男	横手市大森消防団	副 団 長	菊 池 二 郎
横手市平鹿消防団	副 団 長	国 安 孝 夫	北秋田市消防団	副 団 長	杉 渕 一 弘
横手市山内消防団	副 団 長	高 橋 弥左工門	秋田市消防団	分 団 長	池 田 秀 勝
大館市消防団	分 団 長	小笠原 勇 一	北秋田市消防団	分 団 長	加 賀 昇 誠
能代市消防団	分 団 長	笠 井 康 成	潟上市消防団	分 団 長	川 上 多 智 美
横手市雄物川消防団	分 団 長	児 玉 悦 朗	五城市町消防団	分 団 長	小 玉 勝 彦
三種町消防団	分 団 長	小 玉 廣 司	横手市十文字消防団	分 団 長	近 藤 義 信
八郎潟町消防団	分 団 長	齊 藤 一	大館市消防団	分 団 長	斎 藤 義 信

大仙市消防団	分 団 長	佐 川 良 一	大仙市消防団	分 団 長	佐々木 清 行
大仙市消防団	分 団 長	佐々木 勇 治	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 明 雄
由利本荘市消防団	分 団 長	佐 藤 治 円	大瀧村消防団	分 団 長	佐 藤 壽 作
大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 聖 臣	湯沢市消防団	分 団 長	菅 義 照
秋田市消防団	分 団 長	杉 山 竹 義	秋田市消防団	分 団 長	須 磨 良 郎
潟上市消防団	分 団 長	田 仲 一 人	鹿角市消防団	分 団 長	田 原 淳 二
横手市横手消防団	分 団 長	津 川 吉 男	美郷町消防団	分 団 長	照 井 正 明
能代市消防団	分 団 長	七 尾 辰 美	美郷町消防団	分 団 長	畑 山 源 太 郎
大館市消防団	分 団 長	畠 山 弘	仙北市消防団	分 団 長	林 崎 久
大館市消防団	分 団 長	日 景 賢	能代市消防団	分 団 長	平 澤 幸 夫
大仙市消防団	分 団 長	藤 井 辰 雄	仙北市消防団	分 団 長	藤 島 絹 雄
羽後町消防団	分 団 長	藤 原 宣 一	由利本荘市消防団	分 団 長	藤 原 正 利
秋田市消防団	分 団 長	保 坂 勝 実	八峰町消防団	分 団 長	本 多 金 雄
井川町消防団	分 団 長	三 浦 公 徳	男鹿市消防団	分 団 長	目 黒 政 彦
大仙市消防団	分 団 長	茂 木 勸 之 丞	上小阿仁村消防団	分 団 長	山 形 武 夫
仙北市消防団	分 団 長	山 手 善 美	北秋田市消防団	分 団 長	吉 田 竹 雄
男鹿市消防団	分 団 長	吉 田 陽 一	大仙市消防団	副 分 団 長	池 田 正 孝
大仙市消防団	副 分 団 長	加 藤 俊 作	大仙市消防団	副 分 団 長	佐 藤 猛
横手市増田消防団	副 分 団 長	佐 藤 富 男	小坂町消防団	班 長	久 保 光 市

◆竿 頭 綬 (1 消防機関)

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部・仙北市消防団

◆消防団等地域活動表彰 (事業所表彰) (1 事業所)

鹿角市 ハタリキ 株式会社

消 防 庁 表 示 証

◆消防団協力事業所表示証 (5 事業所)

にかほ市 コマツ建設 株式会社 鹿角市 株式会社 石川組 大仙市 高吉建設 株式会社
 男 鹿 市 有限会社 グリーンサポート男鹿 横手市 伊藤建設工業 株式会社

日 本 消 防 協 会 長 表 彰

◆特別表彰まとい (1 団) 大仙市消防団

◆表 彰 旗 (1 団) 由利本荘市消防団

◆竿 頭 綬 (3 団) 五城目町消防団 美郷町消防団 横手市山内消防団

◆功 績 章 (20名)

小坂町消防団	分 団 長	澤 田 勤	大館市消防団	副 団 長	成 田 健 直
大館市消防本部	消 防 監	渡 部 明	大館市消防団	分 団 長	奥 村 牧 子
三種町消防団	団 長	金 子 忠 夫	能代市消防団	分 団 長	佐々木 光 夫
男鹿市消防団	団 長	鈴 木 清	井川町消防団	団 長	遠 間 富 和
秋田市消防団	分 団 長	菅 原 茂	秋田市消防団	分 団 長	竹 内 勇 三
由利本荘市消防団	副 団 長	石 綿 喜代隆	由利本荘市消防団	副 団 長	佐々木 勝 美
大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 芳 男	仙北市消防団	副 団 長	佐々木 久 悦
美郷町消防団	副 団 長	高 橋 英 喜	横手市増田消防団	副 団 長	大 類 良 一
横手市十字消防団	副 団 長	大 山 晴 美	横手市増田消防団	副 団 長	平 良 木 保 吉
湯沢市消防団	分 団 長	佐 藤 忠 藏	湯沢市消防団	分 団 長	佐 藤 孝 吉

◆精 績 章 (46名)

鹿角市消防団	副 団 長 青 澤 尚 人	小坂町消防団	分 団 長 木 村 慶 英
北秋田市消防団	分 団 長 佐 藤 昭 夫	北秋田市消防団	分 団 長 加 賀 昇
上小阿仁村消防団	分 団 長 伊 藤 勝 義	北秋田市消防本部	消 防 司 令 成 田 忠 男
大館市消防本部	消 防 司 令 渡 邊 暢 一	大館市消防団	分 団 長 佐 藤 今 子
八峰町消防団	副 団 長 佐々木 隆	能代市消防団	分 団 長 笠 井 康 成
能代市消防団	分 団 長 平 澤 幸 夫	藤里町消防団	副 分 団 長 石 川 安 信
男鹿市消防団	分 団 長 鎌 田 満	潟上市消防団	副 団 長 高 橋 寛 儀
潟上市消防団	分 団 長 田 仲 一 人	五城目町消防団	分 団 長 小 玉 多 智 美
井川町消防団	分 団 長 三 浦 公 徳	秋田市消防本部	消 防 司 令 佐々木 康 夫
秋田市消防本部	消 防 司 令 長 三 浦 直 志	秋田市消防本部	消 防 司 令 長 保 坂 重 彦
秋田市消防団	分 団 長 山 内 隆 一	秋田市消防団	分 団 長 加 藤 岩 彦
由利本荘市消防団	分 団 長 佐々木 千秋	由利本荘市消防団	分 団 長 木 内 健 悟
由利本荘市消防団	副 分 団 長 高 橋 春 雄	由利本荘市消防団	部 長 茂 木 和 也
にかほ市消防団	副 団 長 今 野 弘 喜	にかほ市消防団	分 団 長 横 山 功
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長 小 田 原 博	美郷町消防団	団 長 高 橋 正 尚
仙北市消防団	副 団 長 高 橋 博 紀	大仙市消防団	副 団 長 伊 藤 金 夫
大仙市消防団	副 団 長 小 田 嶋 俊 一	横手市消防本部	消 防 司 令 長 佐 藤 公 晴
横手市消防本部	消 防 司 令 長 小 西 隆 悦	横手市増田消防団	分 団 長 松 井 大 作
横手市増田消防団	分 団 長 高 橋 勇 三	横手市増田消防団	分 団 長 川 崎 明
横手市平鹿消防団	分 団 長 佐々木 利 廣	横手市大森消防団	分 団 長 阿 部 幸 悦
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長 沼 倉 亘	湯沢市消防団	副 分 団 長 栗 田 俊 弘
東成瀬村消防団	分 団 長 富 田 富 男	羽後町消防団	分 団 長 武 田 継 夫
湯沢市消防団	分 団 長 佐 藤 久 夫	湯沢市消防団	分 団 長 奥 山 優 一



消防団員募集

地域の安心と安全を守るために、あなたにもできることがあります。

消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員の減少で、地域防災力の低下が懸念

本県の消防団員数は、昭和31年には3万6千人が在籍していましたが、年々減少し続け、平成25年には半分を割り込み、1万7,500人となりました。

地域の消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。

一人でも多くの方に、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

平成26年度主な事業計画

事業項目	実施時期
第1 消防思想普及啓蒙事業	
1. 火災予防運動の推進	年間
2. 防火ポスターコンクールの実施	平成26年11月
3. 殉職者慰霊に関する事業	
(1) 秋田県消防殉職職・団員慰霊祭	平成26年8月26日
(2) 全国消防殉職者慰霊祭	平成26年9月11日
4. 広報紙の発行とホームページの開設	
(1) 新聞「消防秋田」の発行	毎月1回(1,100部)
(2) ホームページでの情報提供	年間
第2 地域消防防災力向上推進事業	
1. 消防団員の教養研修	
(1) 現地教養研修の実施	年間
(2) 秋田県消防大会の開催	平成26年6月28日
(3) 各種研修会等への参加	
・女性消防団員教育	平成26年10月25日～26日
・全国女性消防団員活性化ちば大会	平成26年11月14日
・消防団員指導員研修	平成26年11月29日～30日
・消防団幹部特別研修	平成27年1月13日～16日
・消防団幹部候補中央特別研修(男性)	平成27年2月4日～6日
・消防団幹部候補中央特別研修(女性)	平成27年2月18日～20日
2. 消防操法大会の開催	
(1) 秋田県消防操法大会	平成26年9月4日
(2) 全国消防操法大会	平成26年11月8日
3. 消防団活動の活性化	
(1) 女性消防団ネットワーク会議の開催	平成26年9月26日
(2) 消防団長研修	平成26年12月4日
第3 消防職団員福利厚生事業	
第4 消防互助会事業	
第5 会議の開催	
(1) 評議員会	平成26年5月20日
(2) 理事会	年3回開催
(3) 監査	平成26年4月18日
(4) 消防互助会審議委員会	平成26年4月25日
(5) 支部事務担当者会議	平成26年6月6日

秋田県消防協会第三回理事会在三月六日(木)、秋田市の「イヤタカ」で開催され、平成二六年度事業計画や収支予算などが承認されたほか、六月大仙市で開催される秋田県消防大会などについて協議されました。

**平成二六年度
事業計画・収支予算
承認される
秋田県消防協会**

平成26年度収支予算

勘定科目・主な事業費	予算額
事業活動収入計	29,282,150
消防互助会掛金	5,682,000
事業収入	248,400
補助金等	12,197,000
負担金	5,096,000
年会費	5,853,000
その他収入	205,750
事業活動支出計	32,536,000
火災予防運動の支部活動費	900,000
消防思想普及啓蒙費	2,530,000
秋田県消防大会費	930,000
女性消防団員研修費	232,000
秋田県消防操法大会費	1,092,000
支部消防操法大会助成費	900,000
全県消防団長研修会費	257,000
女性消防団ネットワーク会議費	362,000
消防互助会見舞金支出	3,000,000
当期一般正味財産増減	△3,253,850
一般正味財産期首残	113,268,123
一般正味財産期末残	110,004,273
基本財産	3,000,000

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 **能代消防センター**
株式会社 **協立**

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

特別研修に参加して

日本消防協会が主催する第四〇回消防団幹部特別研修及び第一三回消防団幹部候補中央特別研修は、日本消防会館で別表の日程、研修科目により実施されました。

本県から参加した五名の受講者から報告がありましたので紹介します。

研修名	幹部特別研修	幹部候補中央研修 (男性団員の部)	幹部候補中央研修 (女性団員の部)
開催月日	平成26年1月14日(火) ～17日(金)	平成26年2月5日(水) ～7日(金)	平成26年2月12日(水) ～14日(金)
参加者数	47名 (うち県から1名)	138名 (うち県から2名)	93名 (うち県から2名)
研修科目	日消会長講話 課題討議・発表 消防行政 防災対策 消防団実務 危機管理 他	日消会長講話 課題討議・発表 消防団運営 活動事例 (東日本大震災) 危機管理 他	日消会長講話 課題討議・発表 消防団実務 防災対策 予防 話し方講座 他

消防団幹部特別研修



にかほ市消防団
団長
佐々木 護

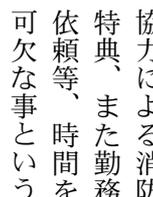
日本消防会館にて、平成二六年一月一四日から一七日までの四日間開催されました。

開校式当日、式場に向かう途中エレベーターで偶然秋本会長と一緒に、励ましの言葉をいただき非常に感激致しました。研修科目は、日消会長講話、課題討議・発表、消防行政、防災対策、消防団実務、危機管理、視察等であり、全国の精鋭四六人と共に有意義な研修を行うことができました。

この研修のメインである課題討議は四つの課題があり、私は「消防団員の確保対策」の第四班のメンバーとして活発な意見交換を行いました。どの地域でも、過疎や少子高齢化に伴う消防団員の減少、若年層の勤務体制と意識の変化、地域社会での理解不足等により、消防団員の確保に頭を悩ませ苦労しているようです。

第四班のまとめとして、これに対する特効薬はないのではないかと、小中校生のクラブ活動に消防クラブの導入等による少年期からの教育、団

消防団幹部候補中央特別研修



北秋田市消防団
班長
湊 健作

今回は、全国の消防団幹部の皆様と接することができ、貴重な体験ができました。この体験を、今後の消防団活動に生かしたいと思えます。

今回の研修に参加し、講話やグループ討議などを通じて、全国の消防団員の方々と様々な話をする事ができ、大変貴重な体験をしました。

私たちのグループ討議のテーマは、「サラリーマン化が進む中での効果的な活動方策について」でした。討議では、各消防団の現状、その活動など意見が次々と出され、大変熱い討議となりました。

今後は、この研修各班の討議内容をもとに、全国のみんなと情報交換しながら、消防活動を頑張りたいと思います。ありがとうございました。

消防団幹部特別研修



秋田市消防団
団員
佐藤 祐巨

この研修に参加し、他県の方々と交流ができ大変良い勉強になりました。

これから自分が消防団員として何をしたいといけないか？何をしたら良いのか？改めて考えさせられました。全国それぞれ災害の種類は違うと思いますが、先ず自分の住んでいる町、地域に関する災害に対して把握しなければと思いました。

また、他県の方々の意見を参考にし、訓練の仕方、人員不足に対する対応を考えて行きたいと思えます。

課題討議中に、東日本大震災の大きな被害を受けた宮城県の方が話した「震災後、団員は皆辞めたいと言っている。」という一言が、今もなお強烈に残っています。



秋田市消防団
本部団員
加藤 福子

この時、私は絶句してしまいました。その状況の中、班長が入団の動機は何かと、班員皆に問いました。私は、三十歳を機に、分団長である父からの勧めもあって志願しました。『支えられる立場から、支える側にならなければ。』この思いが、入団した理由であったと同時に、原点だということを今回の研修に参加し確信しました。

団員不足が懸念されている中、啓発活動等を通して、団員としての姿勢や団員である意義を若い世代に伝え、団員減少の歯止めを繋げればと、熱い思いを胸に抱き、研修を終えました。

今後は、習得した知識を十分に生かし活動してまいりたいと思います。



由利本荘市消防団
班長
佐藤 美子

開校式を終えて、まだ緊張感の残る中始まった研修会は、メモを取る手が止まらないほど中身が濃く、全てに共感し納得できる内容でした。

秋本会長は、「これからの日本消防」について、消防団がどのように活動して行くべきか、装備の基準大改正、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律等、わか

りやすく、そして熱く語ってくださいました。この講話で明るい未来の消防団の姿が見えてきたような気がします。

また、長谷川祐子先生の「危険を乗り越えるための知恵を教える」火災教育、心理学でもある「危険性、バ

イパス」のお話等、インパクトのある貴重な内容には驚き、是非地元で実現したいと計画を練っている最中です。

班の課題討議では、行動力のある他県の仲間の情報を得ては何もできていない自分が情けなくなりました

が、今はその悔しさがバネになり、一歩踏み出す勇気を頂きました。そしてこの研修に参加させて頂いた、関係者の皆さんに感謝しながら、今回の成果を出すべく「形」にしようと思えます。いえ！「思います」ではなく「形」にします。

平成26年度消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰

作品募集

応募要領

○募集区分

- (1) 消防防災機器等の開発・改良
- (2) 消防防災科学に関する論文
- (3) 原因調査に関する事例報告

○応募受付期間

平成26年4月1日(火)
～5月9日(金)

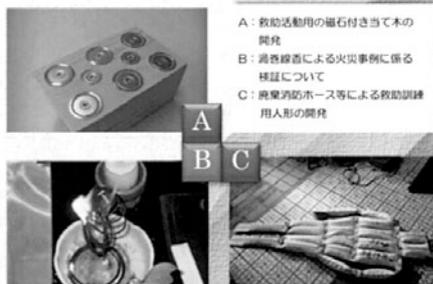
○表彰

優秀な作品には消防庁長官から表彰状が授与されます。

○スケジュール

受賞者は、9月頃に決定され、公表される予定です。

※選考過程で受賞候補作品をホームページにて紹介させていただきます。詳細は消防研究センターホームページをご覧ください。
<http://nrifd.fdma.go.jp/index.html>



A: 救助活動用の磁石付き当て木の開発
B: 消火器による火災事例に係る検証について
C: 商業消防ホース等による救助訓練用人間の開発

平成25年度受賞作品(一部)



D: 可燃式消火薬剤混合器具の開発(クイックミキサーの開発)
E: 微量のエタノール添加によるウォーターミスト消火性能の向上
F: 可燃ポンプ用ワンタッチ吸排ストレーナー

消防庁 消防研究センター 研究企画室
TEL: 0422-44-8331 FAX: 0422-44-8440
E-mail: hyosho2014@fri.go.jp

支部情報アラカルト

津波災害等の
大規模災害時を想定した
訓練の実施

秋田市消防団土崎北分団では、三月一日土崎消防署を会場に、津波災害等の大規模災害時における消防団の災害対応能力及び安全管理対策の向上を図ることを目的として、訓練を行いました。

訓練で使用した車両及び資機材は、総務省消防庁が地域の総合防災力の強化を目的として、平成二四年度補正予算で整備したものであり、秋田市がその無償貸与先の一つに選ばれていたものです。この度の訓練は、無償貸与を受けた救助資機材搭載型車両及び消防団拠点設置資機材が全て納入されたことから実施したものです。

訓練では、始めに「津波災害時の消防団活動・安全管理マニュアル」を参加者が確認し、その後、分団員を三班に分け、それぞれ破壊器具等の取扱い訓練、AED取扱い訓練、洪水時等の溺者救助訓練をローテーションし、最後に洪水時等を想定した救命ボートを活用した救助活動、大型テントへの避難誘導等の総合訓練を行いました。併せて、総合訓練

ではトランシーバーを使用した情報伝達訓練を行いました。

土崎北分団が管轄する地域には、津波浸水予想地域も含まれており、訓練に参加した団員は、津波到達までの短い活動可能時間の中で、いかに有効な活動を展開するか、皆真剣に取り組んでいました。特に救助活動に使う破壊器具取扱い訓練では、大きな声を出しながら、一つ一つの動作を確認し、チェーンソー、エンジンカッター、油圧救助器具を操作して、それぞれ角材、ドラム缶、単管パイプを実際に切断していました。

訓練終了後、古木副団長から講評をいただき、津波災害時の活動要領を確認した有意義な訓練となりました。

(情報提供 秋田市支部)



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成 26 年		平成 25 年			同期比較	
	3 月	累計	3 月	累計	年計	3 月	累計
建 物	21	68	14	59	203	7	9
林 野	0	0	0	0	34	0	0
車 輛	5	11	3	10	39	2	1
その他	0	3	2	6	70	- 2	- 3
合 計	26	82	19	75	346	7	7
死 者 数	7	16	4	10	22	3	6
負傷者数	8	30	3	13	66	5	17



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp